

知識編

どんな災害があるのかを知る。 情報の受け取り方を知る。

一言で「災害」と言っても種類はさまざま。どんな災害が発生し得るのかを知らないと、それに備えることもできません。発生する恐れのある自然災害と、防災情報の受け取り方についてまとめました。



風水害

早めの対策を講じることが可能。
積極的な情報の取得と、
早め早めの避難行動を。

台風や低気圧、前線、竜巻などの突風による風水害は、日本のどこでも発生する恐れのある災害です。しかし、気象情報の入手など、早めの対策を講じることができます。テレビやインターネットなどを通じて積極的に情報を取得し、早めの備えを行ってください。

必要です。その理由は「水の怖さ」にあります。地面から水面までの高さ（浸水深）が40〜50cmあると、歩行が困難になり、避難することが難しくなります。そのため、浸水する前に避難することが重要です。既に浸水し、屋外への避難は危険だと判断した場合、最低限、頑丈な建物の2階以上へ退避するなど、命を奪う危険から逃れる行動を取りましょ

う。また、警報などが発表される際には、むやみに外出するのは避けましょう。気になるからといって、河川や用水路の様子を見に行くようなことは危険な行為です。

大雨が降り続けると土砂災害発生の危険性が高まります。雨が止んでも、半日程度は注意が必要です。

防災 TOPICS

今年から
「警戒レベル」の
運用が始まりました

「警戒レベル」とは

台風などによる風水害発生の恐れの高まりに応じて、5段階のレベル分けで危険度を示し、早期避難などの命を守る最善の行動を取るよう、促すためのものです。

高齢の方や体が不自由な方など、避難に時間を要する方は「警戒レベル3」『避難準備・高齢者等避難開始』で避難を開始してください。それ以外の方についても避難準備を始め、危険だと思ったら避難行動をとってください。防災無線